
呪い屋・幸祈

梅の助

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

呪い屋・幸祈

【Nコード】

N6747P

【作者名】

梅の助

【あらすじ】

呪いでバトルをします。

ちよつと、しつとりしてるかもしれないけど。
熱いバトル物です。

発端

僕は今、最高に不幸だ。

今まで、普通に中学を卒業しそこそ良い高校へと入学した。

その勢いで某食品会社へ入社した。収入も安定していて、女にも困らなかった。

だが、10月14日。忘れもしない、あの出来事。

その日僕はある友人に裏切られた。証拠があるわけではないが、そう感じたのだ。

よく思う方は少ないだろうと思うが、あの日確かに感じたんだ。

悪意？嫉妬？恨み？妬み？欲？

行きつく答えは一つだった。

——呪い！！

僕はその第六間とでも言うべきだろうか、その辺の感覚に優れているらしい。

その呪いを感じた次の日だ、何もかも失った、職も女も地位も……。

それから一カ月、僕は確認する方法を見つけたその呪いの正体を。直接友人の場所に出向くわけではない。

風の噂で小耳にはさんだのだ……。

呪い屋。

そのキーワードを聞いた瞬間、心臓が高鳴り、骨髄が痺れ、皮膚が引き締まる思いをした。

復讐……。

すぐ頭を振り、その単語を切り離した。

そつ……、ただ確認するだけだ。あの感覚はなんなのか？呪いな

のかと。

行き交う人々に死に物狂いで聞いて回った。呪い屋！呪い屋！呪い屋！

そして、見つけた。呪い屋・幸祈

それは、東京都の都心のアパートの一角だった。

言えば分らないだろう、表札に小さく。呪い屋・幸祈と記してあった。

出会い

その部屋の周りには、異様な空気が立ち込めていた。立ち込めるといふよりは、発していたといったほうが正しいだろう。何となく嫌で、背筋をスツとなぞられるような、そんな感覚。

気がつくとも蓋が痙攣していた、体が拒否しているのだろうか。関わってはいけない、これ以上足を踏み込んではいけない。

だが、彼は行かなければならない。たとえ、この足を一步踏み出した瞬間、狂気に囚われようと。

そこには必ず答えがあるのだ、それはある意味ゴールであり、ある意味スタートでもあった。

震える指を懸命に伸ばし、ドアノブを握った。

そのまま、一気にドアノブを回し。開けた！！

「いらっしやいませ。」

そこは、とても店とは思えない店だった。

人と接する仕事なのだから、礼儀というものがあるのではないのだろうか。

うまく表現することは難しいが、強いて言うならば。

一人暮らしの女性の部屋

といったところか。

「どうかいたしましたか？」

部屋を眺めていた僕はその声に驚いた。

「すみません何でもないです。」

そそくさと靴を脱いで、部屋に入った。

「どうぞお掛けになってください」

どこに座れというのだ、椅子は部屋の真ん中に3脚、乱雑に置かれていた。

その中の一脚を選んで、腰をかけた。

「さあ、何の御用ですか。」

座った瞬間声をかけてくるものだから、また驚いてしまった。まったく、この店主はどこかデリカシーに欠けている。

だが、こつちにとつてもそれは好都合だった。速く知りたかったのだ、答えを。

僕は、永く封じていたあのキーワードを口にした。

「呪い……。」

店主の眉がピクリと動いた。

何かを悟ったのか、ジツと僕を見つめたままだった。

そこで僕はすべてを話した、あの時感じた感覚について。

突然の幸福の消滅との関連。友の裏切りの可能性。

店主は静かに聞いていてくれた。まるで言葉の一つ一つを噛みしめるように。

店主は男だ。長めの髪のアンバランスな髪形で左側をピンで留めていた。

眼には隈が出来ていて人相を悪くしていたが、どこかに優しさがあった。

だから僕は喋りすぎてしまったのかもしれない、いつの間にか泣いていた。

今まで溜めていた物が大きすぎたらしい。大きくて黒い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6747p/>

呪い屋・幸祈

2010年12月31日07時31分発行